りんてきもん巻

そもそもとうふのこうとはこのあいだ今せんくらうしはあるよりうるまやにて平乃ふるひ平あるとみえうる老僧はとこにやどをまのこそうみ所のすりうるせんくらうのあひだにうる男たちまもちやをのこそうがは老僧よりのこのとをとつへたつまらしめらしへ侍るかあるまの男いつやうに板もまよりまのあひだ中よりたうそうせやしてうるはとこにいるれるゆへはやまいくらんぶしてまつよりもうまうるまうなれはたうまうしてあるいろあるくはのはなしりあるせうせうまはしも学文のくらあるあてはとりまもそれあるまこはあるへをまく

やふるとあれどもいかりをさしてゆるあらぶるあれて男の起
一男の云我物の根や誰人のひらきそのひらや　老僧あ
うくいかるくむりてんのうの代よりの地六
しの山のうしとらにあたるこの山のうしとらにあたるこの
さらの山といふたけのきてたかのよりこそのよりの
二十万二千四條年よりのさきなきこの二人の御神おな
しなひてかんなのうれびくよりあるのさうかこうて
さうなふあり諸をこのさうにあるこれてあるあり
とてかこをひきこあけらかそのもてるあるこ
まりて一代の諸とかるれうこれてうの山のうきていりうう
うをとうあるうるなりの級甲子年りもうの月よりある

よりの甲をもちめて福をもちんよりあるくありそれく
ちこれのあるうるきるうるきてあるいるの中のあるし
一男の云のうそのうのうきこの二人の御神おなじ大日
地誰人すてのや　老僧答いはく二人の御神おなじ大日
如来はきこんりして男女あるあるあるして産あるるの
我物をあるうるうんたあるる男女はるるるひこ産の地
一男の云我物をうちいきとはいのれるの人のや　老僧
答曰日本はなんきうとのひれるるるるるるるるて
日のさうひあるるる日輪をうたりてきちの死とはあの
さうとをかをまるひてきんをいふなりの人
ちくをハ月をうこれて月氏國とはい

一男問云ひろい山ハ誰人のひらきそめしや　老僧答云
うの山ハ人王五十代の帝桓武天皇の御時延暦元年
よ僧数大師乃たうとのこのくにこの山をひらきそめ
さるなりとにうよりすてこのかたのちなりこの山ハ
さるの人八十あくそ道のつこをわろ道ーさかゆとと
一男問云さる聖山ハ誰人のひらき給ひしや　老僧答
ちの人王五十二代の御門さがの天皇御時弘法大
師のひらきそめ給ひしとそ聞のなりあんとをもひて
罪九おんひらきまりそ二百年のようろ孫ハ何
こまいのおるりそしりこの三ぶきうのまいちとよと
一男問云あるいの七大ハ誰人のひらき給ひしや

老僧答云七ケ寺のうちさうんあんくよりはのくうりゃ
せいとはくさうずいの七大ちいくらまこ七仏のこびところ
ゆりもんちうんありくうのさうりされうり
一男問云あるいの寺ハ誰人のひらき給ひしや
老僧答云まりゃいかふくそせんのりくあんのこ
孫りてありくうこくのことありてきやうくうこ
人のひらきのひのまゆ男のくまんをんうとりはこ
一男問云我朝ハ三十二ケ国すてありうとのの紙ま
六十六ケ所よりまりれてひろて　老僧答云昔ハ
まりそん人まりていのやうハ日ハ八月ハ月ハ三ケ所あり
是程の國にいてう仏法をひろめんやとやて

ケりそもそも人皇廿二代の帝ようめいてん皇の御時六十六
六ゝ年のあいだ三てゆきてひさうの月とに又ゆきの月ゝ
望ゝを為うまもちんどう八ゝのほうはたいぞうゝいの八ゝう
とへうまとうとうのぞうもゝ六ゝ年八天神七代をゝくしとる
あんゝのぞう六ゝ國八ゝくしくのあるんをもとうとと
為九月ゝこんゝうゝいの九月のまんぞうどまれぬる中
ゝいたまやうそんをへうまをかくろくぞう七ゝ國を
くまこ七仏を為うまを是日なり
一男四云仏ゝ二ゝまをゝくゝ月ゝ八ゝなるゆへゝゝや
き偽善云二ゝまとゝ八ゝ仏大日にゝくゝなりまをる
ゝいやきのくゝちなり是八仏法をまのりてあく国

をたいらぜんゝたあゝ二ゝまうとゝくんじゝ仏をあ記
くゝちをゝふゝ記あうんのゝ月を為うまをあり
一男四いまく神のおゝ為井二ゝまゝ八生死をえん
れまをゝくゝ記四へ為りゝ八為井ゝ内をゝくゝ下
向世界仏をゝくゝ六ゝ仏にゝ明ゝくゝをゝくゝぬ
をのあゝをゝれ八まゝてゝ又まゝくんゝるりゝるゝんゝ為を
まゝくゝふんれゝりゝむゝ記をゝてゝくゝまゝのをゝへゝ今ゝ記をゝくゝ人
八ゝくゝ八ゝうめ四ゝて仏果ゝ記ゝるゝりゝ十界をゝへゝうを
一男四云ゝ言ゝ道ゝ教八をゝ月ゝ仏八ゝ仏法ゝるゝへゝゝや
光像善云ゝそれ哥八字ゝ字ゝ廿一字のゝものゝ仏八
為ゝくゝと日月ゝの三ゝうをゝへてゝよむゝ二ゝ仏の

ゑりハ文字の必要なるりつ所の十二字八十二ゐんゐん
ゑりつきの七字八色衣七仏ゑ七代
どてくるはくるる人ハしやくそんより一子ざのあに
お世せゝ法つ孔子といふ人のはくりはめゝる之
たゝそうにんゐのゝへゝ寄をゝくゝのあ仏神
もゐゝどうゝこを仏も成乃ゝとゝとゝゝ
るゝてん寄やうたゝ神乃はた寄ゝりいゝく
んゝに誠れをよけひれハいのゝしをとても神やゐのゝん
せゝくをうゝ如来の御寄ゝ
いそ老ゝをのゝれ毎乃ゝ生ぬゝ
又ゝ法ゝ誠ゝ治の時ゝ

月のさゝりあゝれたゝゝれ
いゐゝへれ老ゝうれ老ゝの時ゝゝて月のさゝりとゝ成てゝれゝさ
とてゝあゝり初ゝゝんゝ乃頃老ゝをゝゝよゝゝくく
ゝとゝゝも数ゝ変ゝるゝを行ゝれ月のさゝりゝれゝゝゝゝゝ
ゝゝ結ゝゝ文弘法大師ゝゝゝの材ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
有ゝ寄ゝうゝのゝゝゝ月ゝ寄て我行ゝゝるゝの流ゝゝゝゝゝゝ時ゝ所ゝ
と讀ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ持ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

仏ゆりかの法の弁もあり
くのとくのちゝき智人も
高ぜうちに法ゝ文字六字の名号八万法ゝ
一男問云ゝ誰人のもゝあ法ひひや　老僧答曰天
竺のてゝ四ゝ十ゝ年ゝ以前あうちゝんべうをとして二人の名
ゝありゝゝ大あくの名ゝなれゝゝちあるへゝとそ
うゝこのふ俄ゝ法門乃ゝ世界よゆゝの川ゝゝ生
ゝありゝけハ七人ゝ
きなれいゝものゝをあゝりゝて
矢ゝ
ゝ海どう矢ハうけゝ
ゝ
の法ゝ
ゝくゝうゝいあくゝゝちのゝ
ゝ
ゝ

ひろめんとせし時大あく神ちひろめ海ごとて帝
をせめくるる梁をこるハ海もそのくうちへくくうひ
くる神ありまんぐうんおくよハ火ちやうぎとともにもうち
とて我約ハ小國ぬるハ小ちやうぎとくるせりちが
くまてハさすへくらまをみまてこ六ちんハなるさ二人二
す光ハ十二月をへうたくこ七すさ二分ハ七十二回の去年をへ
うまを白石十ぬハ上十ぬ日ちを石十ぬハ下十ぬ日なりと
うハくめこせんさいハ日月をへうたそこハきび大臣のひろめ
一男河云八ちうのくるたハ者ハ川きくうてハや
老僧養ハちくく一番よりハ川さうちやうくるこ二番よ
ハ三ちうくるこ三番よくくちやうくるこ四番よ集
ハ家ちくくる六番よちやうくるこ五番よ家ハくる
ふハくる七番よ天台ふすくくる八番ハちんめんちやう
ハくる光ハふとハくるハ九番ハ二ふありぜんふ海去
ちうあれなりあるをて十ふ光とハ光をとハ家なり
一男河云酒とうひて来をくくくくくくくくて光ふのの
しむハくるハ九ハくるや　光ハ光養云芸天台天ちん
やうちうのハ時天くくりうんるくくりるる光をるんめハ
ふくくるハくくくくくくくく

ちんぞうんへまつりてをはりぬれば日毎へりてるなりぬれば
うえけれむ人今日をうんちうえありとうけうこゆうりゆうり
一男問云そ初めてうえ物となにとそ佛ハ法の酒
あひや　老僧答云ちやくそうんのれ家子に志やうこと
びくとりて人酒と菜のことをとられ中にのりを仏法を
まれがむものあるうをひつてあり仏
ふれうくあるりれどうはけれあるひの人ハ仏の法を
ちうたりそ時仏のうをうくりびはまりくまが
菜子酒のむらにとそてみうひのうちに入ひうくうを
しあるのふなりまうにくく酒のこひ人ハをやぶ
[illegible]
一男問云西ゐるよちやとのこれのうをのうちゆへひや
老僧答云天竺のきバ大ハ八方ハ八方ハ子ハ菜をうえ
菜子一ものよ方二子の菜をうへ二方二子の菜
をれうへまてうりうをうれうひの稲ものきの
菜をなりぶびうぶひ稲門をとうのへうりうをにうり
なりぶびうぶひ稲門をとうのへうりうをにうり
なりうをもやうしの十二神を為うまをなり
一男問云京のをとをうをのハ敬仏するとうハ

いまのゆへなり　武信答曰　系図に云ハく
ゑ人王五十代の帝　桓武天皇の御時　伝教大
延暦十三年十月二日より　ひらうれくはの九でうに
とまりひ一条より九条をゝ　池の下に法華経と九万部
ゑ九九ゐんの書うどを移して　ひらきたてまつる
より始まりをさし　三ゐ大せんせうにはをれも仏
ゐ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ
一男問云　さんハ誰人のうゑ　武信答云
書天皇のめいもんあくに世間をと云帝七歳ゑ
ゆりたのはひさにお行う二年　おひいてゝ
ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ
一回ゆへ　三尺八寸の木　ゆへ　ゆへ　ゆへ
し云字つくりにまつりて　ゆへ　ゆへ　ゆへ
ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ
たゝこてひろまりゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ
八ゐ七百年おの帝　ゆへ　ゆへ　ゆへ
ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ
さゝあゝ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ
月八回ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ
の人ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ
ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ
ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ　ゆへ

ものまうしのまうしたまひしのちうかぐまうもまた弘法
大師のはぶるまひしたまひしかの人はぶるまうしまうしまうし

むなるをかなしむひらくとのもとへまゐらせんとて
とりてはこの九人のまこ二ぢくこぎこしてゆきこ
ろの七郎うの八なん九ゆくえをたづねんとうこゆきうう
とてはこの四十八人まをあつめてはかりしたまふ
たちはきのとりうとりあるをもつてとりあるを
のふんこくる稱する天皇震旦我朝ともに賢王なり
一男周公せいくとりてとりつまこはいれる聖
老僧善云昔天竺三くるうをてのの時大とんまうと
ト帝あひしらんあくまうして法をとうつやぶりま
あくまなきこくこくを法をとうつやぶりま
るり正月の鐸ハうとやぶりうとりくこ
うれるをこくむくはしらみをこくこのりこ
てのつきこくるこそこせのぶ
んこうりこくはうれるあのめてあるうをこくこ
さはうるをあのめくはうるはこのこうはこ
うけやをくこくのうんこのはこうはうんこ三月三日の
くさのもちはうをこふんこのくはこくこくはりまこうまこ
まのはうをこのはうをこのはこ
こくる為はくるこくこれをのはこ
やうぶはせあはこちのたまるこくこ
七月七日のさうめんはさうをくこりはこくこくるんこ
ものはちをまくぐをこ九月九日のあるのはのまこうまはむこ

いとくまのゐもとにつけてこれが流人菊のむかうがは
さる海とまりと云ハれがくびを出ちらしこるまゝ
びんら時八大ほうをゐこうまさてこうちらこるる勅ゐ
八人にて出ろくのそのあこハ天ようのあこを強ろう
姿こうもこれ大どうまうどこのちろまゝびゝ仏法
をこそくめてこれをけりゐ出ハいれそのゆゑ
一男問云ゐ出ハ何ゆゑまゝ光信
答云ゐ出ハいたらりくこてこたる拙人王二十九代の
帝　宣化天皇の時時こるゆゑ
りもりどうきてゐん天ゐ
ゆゑりゐ出ハ何ゆゑ

一男問云ちんとそたちのゆゑ
答云ちんのいそれ先ゐ云年もさてゐ法ゐ
ゆゑここゆさりれこあこ
と云ハまうゐんどうゐ
ゆゑやくとうとて
ゐ出ハ何ゆゑ
ゐ出ハ一問ゐ
べきこさる勅ゐ
ゐるこの人ゐ
大ごうそゆゑ
ゐ神どうゐ
をゆあんゐ問

ぞうやくしのるゝゆへくらうくらいふちとろんらまんえんこうり
一男問云ひこうりうハ祖父の名をうすてひろやゝ　光指
答云祖父なくひとゝハ志ゝんぐんあくまとあえん天ゝうゝへ
ゝうこうりさふゝ風くちにゆうさぐハとてあぐさハくるまき
之川のうこにぞのあつまり浴ひていしの指
とうけゝくまたり利いはもゝ　とうきて志川ゝうゝ
ゝむゝみせいたうとゝもゝ　我釣うてハ世のうち指
うさい志ようそさふゝ風ゝ指ハせいたうとゝ　ゝうう
一男問云ちぐそうハ一ぶのりうそいやゝ名のくうそゝや
老僧答云ちぐそうハ女ちぐ一ぶ　ゝうてのゝ志ゝ志ゝ志ゝうさい
どのゝうぐんハたうのあるとゝうふてこいゝゝやう

ひちそうとゝ志ゝゝうとゝ指てむそんちうくを
すくひのゝゝこいひゝよちぐさう　とゝてゝうくうん波
もちてぐきだうのくうんをすくひ浴ゝ一ぶいゝ志ゝ
ゝゝうんちぐそうとゝて志ゝ志ゝ志ゝうぐさ
くぐんとゝくひのゝゝ一ぶいゝゝやうゝうぐさう
てゝこと指て志ゝらさうのくぐんをすくひのゝ
てこいゝそくちぐさうとゝて志ゝとゝうのゝ
くぐんをすくひのゝゝこいハゝくゝ志ちぐさうと
ゝてゝゝとあゝてゝんだうのくぐんをすくひ
るりくのぞくくたうゝ浴ゝ志ゝ一ぶのゝて
一男問云志ゝ志ゝんハ八まんゆぐんと浴ゝてゝうぐさ

やうにてのう　武信君公三番こせんたいしるなりにし
はちろく　南ろくこんさうれるなるもの　元の
はちろく　南ろくはしめとくあるもの　元のやま
のいきに南はしめとくあるもの　元のやま
一　男同公人のくらいいろいろ　たくひうそしやう
へちくはてしやや　武信君公　そうまうこのくらい
まろうきはへよくのおもてよ　海ろきこいろいろ　いのち
二百年　年　あんまういくに　一のおそ　元のへよりくの
たのてもてわそはして　色あるこくいのらふがやうん
さいさうはのくらすはめのたうくあもはすして
色　赤　さこいのちめ　百年　二百年　三百年　人の
人のそはしもてくはて　色　赤　さこいのちはこ　子　年なり

ゆくりなくあまたのまうけものあり
里一方里あまりへるくりてたかあり
それをこうえくたかのありまうさ川と名はくとされど湾
てあまたあり
天皇ありあまたぐくよりあくくあくくと言南
天ぐくにたりあくくたりさらあ
くあくたやたいくくびやまたらくんたあくはこ和
天らくよりあくくありたりたりのひあくはこ和天皇に言
あくありそうたりあくあくたくんこあくくんこらくはたりやて
はこあくあくんこらくはたりやて
はこあくあくはりまりのこいくかりくんこらくはこ
くれあはこはこ十六の大あはと云はあ天皇とはいはり

一　男四云六月一日に鎌倉のひひろ
まうり帝へあはりがあ年号
まはふさんまの作をあれい文もあうもろそと云
ありとのいまれまりあはりめちとるのあていまひ
作ふくくくくいたりのまんと云まきこ指よりはへうり

一　男四云ぐんりよ死人をと弔ひひいのれろあひや　光信
善云まやくそんの作ちうべんまてたりうあ四云年のひ
て七月十四日に一百九六のりぐうくの魂のふうをあまう
重ひひりりんりよ海うりやと弔ひひひ鎌ばぐくとあ和あうう
ら世ひれたちやちぐくにあ治へとてさんびそうまくそて
ひれをひくくさりんうためりよ百人のらうんたらたせい
つりうまてたいこうをとあ

ちくさのけさうよりはんちくさるよ死人をおもひて弔ひ
給ふ事うんのをとりはじまりひさまひ之世ぐさこれめ給ふ
そんきやのそ〳〵め給ふてうびきうろもの分ぐんにん
るとしなられた仏のあそびがされうるぎまれかやうよ
弔ひのさとへ〳〵のとひぐとのんこきりきやうをや
あにのあうがのうあまそ仏くりくらゝでん法ばこへう
一男四ゑまのそこと一まいそこにせめとゝいあるう
のゝあや　光信答云きやうにうくいのはまうめのの時
はしりてありのふ石のはれゝてあのまりてゝりて
見ゝんゝあり〳〵はうせうのえうへんあゝゝまれそこ
をとりてゝ〳〵れのひてはまをのはそこをとりの
一男四云ゑ仏のはゝめはのはまて仏や　光信答云
天ちく宸見のとゝきゝ仏ひ四年はれゆて変のそゝ
めはやまとのゆきまのりめはあるぢの法面きりはれ
はうゝこのこりはいちのりゝめはこのりめ
きたちはれる仏法のりゝめ天親る山のりめひえは
山ふゝのりめはゝきゝりんきとのりめはうゝこの
きとうこのそゝめはてんせうふはきんはゝのりめは
はのうちゝはゝのきりゝめはいうくゝこのぢうそはゝ
一男四云のりりゝは祖人のあちまそはゝや　光信答云
りゝくの相続すてはゝ仏はへんのはひ於ふ石ありく
御ゝこうん人まは十代の帝　尊仁天皇のはは四ひうん九

はいてのひてのうちにかくれいてをてのたあくあるかをとてを
うをとめてされはとひありてされはあ人とやうにこそ我身は
仏法を法のひとくとあくらんうたあしとうんくたくたへ
八小のもの者故日ゆうん八日りてひそれより南にのう
ひくうち八月八みれくひてのをけくうに地より八所
うをよあにくの日をやうのいてとありてひをせらまに
ちくにいをかのあにのにとくとりうをうがとて
帝よりせんくまてくのをやうのいてれ人をくうての
日ゆうんをのそくをくとのせんをありそれ九月の日ゆうん
一月八日のゆうてにうち八人にてのむとて一人八ゆりうをうて
八人のいてにれをひくにうくこたりをえ一人にをの朋

よるこのちくとをうたり一人八二丈又人のゆうにちりこのも
くをにりくうり一人八二丈のゆうに九月ごのえくをうたり一人
ちを二丈又人のこれをにをのはくをくひくうり八二丈の
たるにに十七このちくをうたりたり一人八二丈又人のこれに十
九このりをうくひくうり八二丈のたれをせるこのくうを
をくを今一人八十六丈の朋をにをちをにりくの
くくを思くをゆうをゆりてのをりをうをえ十六丈の朋に
のをりくうりてにあいをうあまくくへのひくをまにふえをう
のをうをををくうりのをををおひ四丈の朋二丈又人の
朋二丈四丈人のをるを三丈のこれにいてにこむあうのひくを
まにをりをどうのをうにむくをにのこりりのをを

しあるひとへものそやとれひこよりの人の棚こよの棚こよ
ゑ人のこゑるはに人はそりゑあのひこまきよまつげとうの
のうちにさうふのそやとひはのくまんつきとれこて
寛仁二十八年二月十日辰の時ばかりのゆうにとりうう
去程に一ぬいちごんとう武蔵守(むさし)十六ぬのこゑるにのりを
ゑいてとうにむうひなむこ世のまよぬ河ねづく
ハ我身に仏法とふりへくのはらくそへつはけるん
をいこをてこんと大ゑのくこゑのそやとゑてこやと
うちつひりひきまめてたりまんべんぬ河
ゑたゑれいをとうあくこてあくへきまめのくこうこ番
あのはるんまくくこうにあくこ望ハやまとハうちのこうひか

ゑこんぐそせんよはちよりうう者も大臣色ゆめこせん
乃人こをもめて汝きこと云しとりきりゑ又七人のいて
たりもものくにぐるんをたてたれもくとこうりれ
ハ七つの矢七せの日ゑるんよまこくこあくこりてその
日はくこのひうがのゑよはたちこゑるそれよりうこう
ぐとこ日にひふとくくこ去程よこの時ハ西ゑんぐの京
ゑれハ帝もくぐを大臣よりもゑんこにくへこせ給ひて
りこゑくこ月晦日にハの日ゑるんをくこのゑせこゑれ
たけ一ぬゑ人のくこれこれこて一ぬゑ人こはくハ三人ハす
ここてこのくこんをとくくこびをここせてこのへば
二すにあのこ西一せくありこゑなこ二すにゑの三やう

ぶ川てらつゝあり元をハ法のゝ帝へめされ二ぞハ
たりのあ川さのゝうやにあ法ふ一法ハ也のかゝよ
あゝまたり一ハさらのあの日あのゝよりよあ法ふ一ち
ぞれのゝあまりぞれ日ゝりにあるのふ一ハふ也んのまうさ
八まんにあ一ハあゝさゝのゝ祐神よあゝのふハすみよ
しの二ぞぞんてんにあ法ふ一ハ帝のれたら物にゝさ
まりたり刈ぶゝにいまゝてんのまうなりゝう
あくどをたさあんたあのゝうべんにまゝゝろ今又八川の
ゝゝをのぞゝいをゝ天まものふるゝ法くゝと云而
ゝらのゝ下也まゝゝにゝ川まれゝゝり系の所ゝまゝゝ
まりゝゝいゝぞれゝゝを加ゝとゝくさゝてゝのいてゝゝう

ハ坂ふハ今ふを法りるゝうゝれひゝゝられ人今ハ法ひゝて物数
をゝゝゝをのゝりゝゝとゝハ法時ゝりゝゝゝまりたりゝゝ
ゝりゝにゝりのゝてゝうにハ也ぬるゝりゝんよずゝゝといゝり
一男同云二子大子也ゝいまうのゝいゝれて法産や
老僧答云二子大子也ゝいゝゝ大百の中あくと震旦
ゝゝを中也んゝいゝのゝ一方のゝふゝくゝむゝやゝうゝゝゝくゝさん
ゝくゝゝを分我物とあゝ也てゝふせんゝいゝゝゝ物りゝゝいゝ
ゝゝちくゝゝ一方ゝ九百二十ゝまゝうゝゝゝゝ百の中國ゝゝゝまう
あり一方ゝゝゝゝ百ゝまうありゝむゝゝやうゝゝくゝゝんゝくゝハ
一ゝゝを分ゝゝんゝゝんゝゝゝゝくゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ我物ゝハ一ゝゝゝゝゝゝゝ合二方七ゝれ八ゝゝゝゝ

一男四云うこひハ雖人の僧り法ひひや　老僧答いわく
僧ハ人生五十代の垣武天皇の法時ひるのごんのかみ
あるはやまさるゲニひきさらあひて一生のさるハゲく
毎あり也てるとくくへ見刹山まあんなんのちゞん
なれたこびの大臣の見とまびてこと法ひてひに
さと云四てんこうどうことれりさるれとなのふ一だん
よふしこあうと一このをこだりもこいあるのをつを
るりまえ六仏十九すてもあのりをのんをこ又生れてんと
ぼくんこみちゆきおくこせんよりあふんひまうんべ
のれこりしてすこうあ面むんこうんぎハ仏あるこせん
あんよをはうあんあんれくれとしのふんこ又十さの神

の時ちくくのとそそりきまこうたりて人をものを
ろんまろんこふうこひハれこけあやうたりありてさを
よよ世ぎんなとを沢のふまそここの今七八りて第
ようふふとれくしてあそぶんくせまひハれモナ
三ようあん寺川のたりをあらりて法華経を法のふ
楽こ又四年あまりまてちこりあくるんせりいこれて
相ふまそこなりこるとあけハ仏まろうはをのふ時八月
の木ものさひひてあこみたひて二こひまろくありてん
をなくこひありものをふくまそこあるこうハ仏稼
ちんの時三世のあよふ川のるき法ふふこたひく
まろひ一時今一こびりんぐくせんと稼ふへ廿野元

のなくひもれ〳〵くありてまひきんこほくこいかう
はなをうちくるさこたこいはまやうせんまてよてうの時
まろくのまうまうのさのりくりしてくりんきのをと
ふえいぶてんのいびきこんきやうんんぶのちぶはせり
やうをさこはたびくるてひこれきれいはひくるくるのあ
まのはおあまてまひそるくるちこはより字よくるく
とくこくくひとくくくこいはは祈もあふしをもと
くだうまくるこふ毎年あくこのあくこの祈ま
どもはそれはとくるくのくりくるまりまうそはあり
一男向云このおのまあふいれるあるや　老僧答云
まままふはやうふの大日ふんまんくてややうふ不二はと

くくとくくてくる拍人神面白をめきれはより用人
一男向云人方のうりまてくしあをいまりめはいれるあ
くや　老僧答云あれはとて考ひへきにあくをはへは
あるやう三考うとくにいまりめくあはいはは
ふはんでんまうとありてもくうこのくくはあくを
二郎はたいきやくくとありてをとをはよまはくは二郎はは
まうとありてもはてんまんよりくくはりはてんまん
考やうまうとはてもはうをふあはまりはあり
てくをはくうきやうたうをとはへをはをあうくくく
はあはくきやうにくくりくうとはいはりくをはは
をれやはくをひくんまてはは男はくをひはてはは

子にあてゝひて一せのあひだをねぶ一ご人ばかりふ
ゑこゝろうゝまりとゝ公八さいのつとうはようをゝ仏よ面
ぎ沉をとりけてなんぢうむくせうのれやうたりどうむりて
ひかりそひ公ん〻この蓮ひら〻をひぐまやうの所あるべくゆゑ
一男問云ごとゝと云とハ雅人のりめ給ひ給や　答信
答云それゝくらハたゞ志ん天代のもゝめ天照大神日月
をうゞひとりあまのむゝとゝへひきこゝり給ひての所國
ゝくゝやこゝにおりまろる日大つま沉をうとゝひゝ人
ちうべんをめゝゝてうぐらと云とどゝくこゝていい
とのおりてまらせら事ゝれハ天照大神あゝ面日
やとの給ひてすゝいもとゝとあけ給ひゝくゝ又大つま

きうまうやゞていもとにうちゝ人ゝ日月さうにつゝんてゝそ
よゝろ大ゞ沉まうハそ時ゝ問たきそゝ沉やうまゞん
といゝゝゝ主てゝこのゝのゝのゝ山の家と云ゝこのゝ
のゝふゝ沉よみゝこのまゝひゝ月ゝ公ゝ人ゝ公ゝれ
ゝすゝのひゞきゝちやうあの神ゝりゝゝ沉ゝゝ人の
くゝらおのゝこゝゝちのゝにゝゝゝ人のやゝとめハ八ゝ公ゝ
とゝゝとゝゝゝるゝうゝたこうゝこゝの者ハ者ゝ月の者ゝ
ゝゝ面のゝゞゝゝゞゝのゝくゝの者ハ天地和合ハ
て神ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一男問云人ハ雅人のもゝめのひゝや　答信云
もゝんゝりありとゝ公ゝ人ゝ公ゝるゝより二ゝ年ゝ公ゝ孔子

とゝさんの作りたかたちをこゝにかきあらはしたるなり
きもんしき二あり　ひやうぞうそうてうのまもりとなる
そつ〳〵くりんでそこれあんうのあらうこの色うく
こりふるぬいふやうあれの姿もとゝりむすびあれの
ものあらそもう物法蓮花経をとうれ〳〵ろこのすそ色
一男向こうちゝのかたりこゝのれるかのや　老僧善云
閑がらん白月ろうこてゆ姿なんにをうれせりうこう
せいせい風出てむしのまうゆ物んをもちを風のた
よりをいてやうこゝ出やうこゝいちゝとちろこのもく出つゝあ
風氏はそのうすてゆゝ出ゝ色のつけをゝく閑をろこゝゆゝ

一男向こうあゝまゝこゝ世人のもちゝあのひのや　老僧善云
あゝまゝこゝのもちんまゝよゝかたゝこゝ
ゝれちやうゝやゝ角ゝをまゝのべうゝ
をつゝあてゝこんのもちゝらをとゝ
ゝてゝをゝをゝこゝそゝゝをゝゝきこのゝこゝすてゝゝゝて
をゝあをてゝうせゝをゝをゝゝこゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝぬゝゝゝゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一男間云志やうにいろいろのものをいのれる所のや　志摩
養云志やくそんの摂中八天皇の御やうに大きなる
二人のまゝ子まして志間云志ゝ　ゝ　ゝ　

へかのひとあこうしとさるあひまに人なさるのぎやうの事共
見たちまちに人々しにとてふうしゐとりに海へ出
ぐりけ給ひとうまぎやうこくへまゐる人と
又而ゆまこんゆまんゆくれきてにかとぎしとやせんこくや
せんとうれしこのかぐりの句くて五年をこのまた
出家二人まうけのふまをいかまやく海にこのしとにこれ
かちくだたしとりあられまよう人なあらハさい
高麗やうのはそこをとれへくんとて作りくて五年
のはをのいとうまんとにしてめくのまうたた
ちくりに海よりあれて四人の人をいかとれてかと
あくまのぎやうあくのこわとうまもてりくそうへかりくり

絵ゆるとんそくまうこうせんんぎこよあこせのへハ二人の
川のまをひこきのふくてこ年のなるをあ
ここ法ゆうあのりこハせんぎやうこの永こ結
ひて見をまをつりのこをもてぎやうぐをもうて
りくてあこくに仏とくんじ結ひて六十の大くまんをち
てばこち十二ぐうんをバ八城ありしのの四
あふこうれにやこあこいにはこあこハ
逆のふまをのまやくまこうこのくまんをんとぬふ
沢命のちくだたしこせこれ結ひひ結
四十八ぐうんをとぐてこうせのひぐうんとあこうこあひてを

よいのもちのごきこしあれば
一男問云世尊仏ものをかそ
養云ものや仏ものうせん
ものうかてらあらせらうこと
つきこしこのものものや
帝も十方人ものこと
せらそるなんこのうもう
ものうものこのもうもう
もらこのもうもうもう
ひ八十八のもうもうもう
ものんてうのあのもの

一男問云仏法ものこと
うせんとものや　老僧養云仏のこと
ひへそれ中世の事そこの
世ものこと　老僧
のひてひものものこと
ものてあるものもの
一男問云ものへものこと
そ年ものものこと　老僧
ものものものこと
あそのものものこと

の寶物をとりてのうひこがが年家大夫の人間
清盛の時あまたをやきこしあひのうるがりて西海にながしてつまして
一男問云うさハ雅人のりめ給ひしや　彦信答云
人皇四十五代の帝聖武天皇の治時あやうまこさこ
年号田むらの代のうさこたらを
ようりをもうびさこ海ぐ横さこ
みさうりさハ人皇七代の帝孝靈天皇の治時りまりて
一男問云うたきもハ雅人のりめ給ひしや　彦信
答云てりまんりうの治時のうふとこのたくこ
一男問云ハ三ホの順礼ハ雅人のりめ給ひしや　彦信
答云人皇十四代の帝ちんゆうかんの治時ちいくりんこ

三月十七日ちやうらう上人ハ年十七さのすてくすのれちよ
まりあのて六月一日よりこの國ぶたくこうてねこあ
られひさこへハまりのりんぶのたあすてひお家なのこ
てむやくこうのまやうくうよ上人とりハ人皇六十五代の帝
紀山法皇のれるりて世ぶこありしぐこ西のあんぐんのれ
つけにより十七さのすてくせのふりりん上人とうらう
れくこだうよ上人とうたうなるれてあさられの迎
一男問云ちハ雅人れ西ちすてひや　彦信答云れ
帝ハちんくんのくやこをまりびくこへやれりんくう
こりきあやをくこびをかよ京の人をもをちくを
みりくこうるひるぶんくれくあるこ日ぶよハ

人王四十五代の帝聖武天皇の御時天平年号あり
是より七年よりあんとくてんわう信濃の国のこんくうのこ
やとをうるとりて三宝の帝とをがめうまいてうりあの
ろいちはとこころくよりとりて御てくまいぐんつかい
給ひめんくのものをあにいちよりてのなり
一　男同云びなは雄人のりめのものいや　老僧答云
それひなは天ちづくのあまをまんまうの代きふと云
をのの御りうるくに天はくのいちんちをとうるこあるこ
又天皇ちんこう我給ひをうのまをへ日なよりはうること
はの人王六十代の帝煙義のりまうの御時初まりてい
くりくはひなのをんきにをんくたり

一　男同云女字は雄人のりめ給ひのや　老僧答云
女字はりの人天王の四十八字のをとこらよりをれへてはきやば
せらのよひろめのの女は百四十の年よりは天王やうのんきの
の百ちうすそひをうこはきんぐんのさうのりんきの
きろとををのが御りひすこうくんをうう御りの年をうてんぐ
一　男同云ふ出はりの世にはてきひや　老僧答云
人王二十二代の帝雄略天皇の御時一日一夜よりの云
ゆりたりの出たりをてふうんくうをすこにはくはれ
こうけうる人もありうるの人王平代の帝敏達王の
はけをうんくいうは年よりをうんの紙おれうつを給ひて
別のこそめ給ひてあのこありはのへをうる縁よ

中くらゐのしゆしやうにんさうのなかにて
ようしやてんのうのまへにて御祈願をなさんとの
一男四人公仏ゆゑよりさうの中にけんめんとの
いろはかるそや　老僧答云まことやうにて中めん
そんいかりけるやうにて四人公仏にらづ答云やう一切
とくはさやうづうるれいれやんのうあひとひろめのへば三
ゆゑん初一年とんるの八一会のうらゐまんけはこゆう
てゆゑ八万やうさうの中よりまんきやうや
うとやうゑゑ時は男をうちちやうやうそもく法仏相
いろはかるんけてはさのやうりうそあにまりあひまん
ちうの法ゑんをとくゑゑゆゑにて法ゑ文はき

いあゑや我ゆゑ本よりあうをあらゑめくるまてゆ会見
れくゑ四ときは仏よあひ事ゆ今りめと悦ひ
ゑれい老僧ゆゑはれるひゑそうゆんりんきこれも
のまてありつづ年十九まてりこをそうれようん
をひさうへてゑゑゆんぎんをえゑろ時いろゆりて
生死をとゑれまだやうだにりくうんとあひてゑ
あゆゑゆつれはぎせんりてゑへまむひてさゑんこ
ともくゑゆまんちまゆぎやうをゑてそくまんそく
ゑ四のやうをゑんともゆゑをにゑだうとうるを
うんゆまりてそくぐをうふうんもをゑゆゑゆく
むゆやうをつあうをそゑゆゑんぎつのれをゑ

よあひはりぐうけとやせんくやせんとこの年二十一
ばりうやみよのやりたらるんすて念仏ありぐ
ふぎうぐうそんどんうきうまうりぬひはかれ
いるれうくそとありそれいうの男やう我おいはまもやま
とのそのすてひぐ年十二すりあんとこうしぐまう
あんよ者ぞ仕りひぐそれすてもまとれたうたうて
ひけ仕ぞ年のうせんぐびのとれひくまうようめぐ
ぎひて今仰のどくひんせんるれい仏法そうも
くやうせん系ひのとうりんうこうてれすひ
あしくの祈ぞうしぬれそとあうまうぬすに
そうそうてんよせんいあ者ぞ者ひのんぐひいもせい

てうの一刀ともそうしよまんもるともあり者よせ
んまれあるまとうのてもへ一二へ者のうるこせん
あんのんへ一てきこの霊ぬりもひまもぎやうふ刀を
あんこあり刀きれ者すもあ者ーとひきる
あてひるれ信れのれてーよぬやーうんとてやって
うこそうてすこそあの者よまるもうへくあ
まーれ者信やーされるへりしぐあをばくうまん
ぎうとりひるれ仰のうをばそうまんぐうとぞつ
者すふるりとよそうまんはせんぐびりもどちや
やにそうて中あるあ者をこうあーてうまん
ぐうよそあうすあるれぐーにうまんうこ人のう

ちやうをとりてせんこうまちとて十ちやう
もちうあるこて二人ゐてうきけをやうようせ
ようそのうちのもの共のあさまの
ちせんもうとりひしんそのちやうをあるひ
しうあまりにのきあるりんとうありとそや
そうれもきひてせうんひまりひなり

ひらんてきに向答世間多ひ公事し
かゝ御ゐ者之家今又沒今開板者也

明暦二年丙申二月中旬　松會市郎兵衛